

次期計画の数値目標及び評価指標の設定について

1 数値目標の設定

次期計画における数値目標は、現計画で設定していた目標を基に、本県の過去実績に基づく推計と国の基本方針で示された削減目標の考え方等を比較検討し、設定する。

また、CE 推進プランとの統合にあたり更なる循環利用を促進するため、ごみの発生抑制及び焼却処理から循環利用への転換に向けた取組目標として、国の基本方針を参考として新たに「一人一日当たりのごみ焼却量」の追加を検討する。

【一般廃棄物】					
項目	現状値 (2024 年度)	現行計画の目標値 (2026 年度)	将来推計値 (2031 年度)	想定される目標値 (2031 年度)	国の基本方針 (2030 年度)
① 排出量	222 万トン	239 万トン	210 万 3 千トン (2024 年度比 5.2%削減)	202 万トン～ 210 万 3 千トン程度 (2024 年度比 5.2～9 %程度削減)	2022 年度比 約 9 %削減
② 出口側の 循環利用率	22.1%	約 23%	21.3% (2024 年度比 0.8 ポイント減少)	23～26%程度	約 26% (2022 年度実績 約 20%)
③ 最終処分量	13 万 3 千トン	18 万 6 千トン	12 万 5 千トン (2024 年度比 6.4%削減)	12 万 5 千トン 程度以下 (2024 年度比 6.4%程度以上削減)	2022 年度比 約 5 %削減
④ 一人一日当たりの 家庭系ごみ排出量	463g	480g	440g	440g 程度以下	約 478g (2022 年度実績 約 496g)
⑤ 一人一日当たりの ごみ焼却量※ 【新規】	615g	—	594g	525～594g 程度	約 580g (2022 年度実績 約 679g)

※家庭系ごみの他、事業系ごみの焼却量も含む

- ＜目標設定の考え方＞
- ・①については、将来推計値と国の基本方針で示された目標値の範囲内で検討する。
 - ・②については、現行計画の目標値と、国の基本方針で示された目標値の範囲内で検討する。
 - ・③、④については、将来推計値に合わせた目標値を基準に検討する。
 - ・⑤については、将来推計値と国の基本方針で示された目標値の削減率（2022 年度比 14.6% 減）を適用した数値の範囲内で検討する。

【産業廃棄物】

項目	現状値※ (2024 年度)	現行計画の目標値 (2026 年度)	将来推計値※ (2031 年度)	想定される目標値 (2031 年度)	国の基本方針 (2030 年度)
① 排出量	1,552 万 4 千トン	1,557 万 3 千トン	1,633 万トン (2024 年度比 5.2%増加)	1,567 万 9 千トン ～1,633 万トン程度 (2024 年度比 1～5.2%程度 増加に抑制)	2022 年度比 約 1 %増加に 抑制
② 出口側の 循環利用率	70.3%	約 74%	70.7% (2024 年度比 0.4 ポイント増加)	70.7～74%程度	約 37% (2022 年度実績 約 37%)
③ 最終処分量	75 万 2 千トン	61 万 4 千トン	80 万 2 千トン (2024 年度比 6.6%増加)	67 万 7 千トン～ 75 万 2 千トン程度 (2024 年度比 10%程度削減) ～増減なし	2022 年度比 約 10%削減

※産業廃棄物関係の現状値及び将来推計値については速報値

- ＜目標設定の考え方＞
- ・①については、将来推計値と国の基本方針で示された目標値の範囲内で検討する。
 - ・②については、国の基本方針で示された目標値を満たしていることから、将来推計値と現行計画の目標値の範囲内で検討する。
 - ・③については、現状値と国の基本方針で示された目標値の範囲内で検討する。

【食品ロス】

項目	参考値 (2000 年度)	現状値 〔①2024 年度 ②2025 年度〕	現行計画の目標値 (2026 年度)	想定される目標値 (2031 年度)	国の目標 (2030 年度)
① 発生量	825 千トン	372 千トン※	433 千トン	329 千トン程度 (2000 年度比 60.1%程度削減)	—
	家庭系	356 千トン	165 千トン	152 千トン程度 (2000 年度比 57.3%程度削減)	2000 年度比 50%削減
	事業系	469 千トン	207 千トン※	177 千トン程度 (2000 年度比 62.3%程度削減)	2000 年度比 60%削減
② 食品ロス問題を 認知して削減に 取り組む消費者 の割合	—	79.2%	85%	85%	80%

※事業系食品ロス発生量の現状値については速報値

＜目標設定の考え方＞

- ・①については、直近の国の食品ロス発生量の推移を参考に検討する。
- ・②については、現行計画の目標値を基準に検討する。

2 評価指標の設定

次期計画の進行管理を行う上で、主要施策に対して新たに評価指標を設定し、各施策の進捗状況を把握・検証することで適切な進行管理を行うことができるようにする。

具体的な評価指標については、計画素案の作成と併せて検討することとする。

【主要施策及び評価指標の例】

主要施策	評価指標	〔参考〕 現状値 (2025 年度)
資源の循環利用に向けた行動変容の促進	企業向けセミナー等の開催件数	2 回
サーキュラーエコノミーの推進	サーキュラーエコノミー型ビジネスに関する相談件数	478 件
廃棄物処理施設の整備の促進	「愛知県ごみ処理広域化・集約化計画」における焼却施設の集約化計画の達成地域数	2 地域
適正処理と監視指導の徹底	監視パトロールの実施回数	692 回
非常災害時等における処理体制の構築	市町村に対する災害廃棄物対策に係る研修等の実施回数	3 回
プラスチックごみ削減の推進	「あいちプラスチックごみゼロ宣言」を行った「ごみゼロ社会推進あい知県民会議」と連携したイベントの開催回数	1 回
食品ロス削減の推進	あいち食品ロス削減パートナーシップ制度登録事業者数	22 事業者